

# 都市に広がる祭礼空間の分析・把握

渡辺 秀斗<sup>1</sup>・吉川 眞<sup>2</sup>・田中 一成<sup>3</sup>

<sup>1</sup>学生会員 大阪工業大学大学院工学研究科都市デザイン工学専攻博士前期課程  
(〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5-16-1, E-mail:m1m15109@st.oit.ac.jp)

<sup>2</sup>正会員 工学博士 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科  
(〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5-16-1, E-mail:yoshikawa@civil.oit.ac.jp)

<sup>3</sup>正会員 工学(デザイン学) 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科  
(〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5-16-1, E-mail:issey@civil.oit.ac.jp)

近年、伝統的な祭礼行事が地域の活性化につながるとして見直されている。人々は祭礼行事を通して、地域への親しみや帰属意識を感じることができる。また、祭礼行事は観光資源として成り立っているものもあり、地域固有の魅力を引き出す場を生み出している。普段閑散としている神社仏閣などが、祭礼当日になると多くの人々で賑わい、活気を生み出す空間に変化する。祭礼行事の中には境内だけでなく、境外に繰り出し地域を巡るような祭礼行事も存在する。本研究では祭礼が展開されている空間を祭礼空間とし、祭礼空間の広がりや都市との関係性を分析・把握する。

**キーワード:**祭礼空間, 神社仏閣, 地車

## 1. はじめに

祭りは古くから地域住民の協力によって担われ、過去から現代にかけて残された歴史的に貴重な行事である。過去から現代にかけて形態を変えてきた祭りがあれば、昔の形態を変えずに現代に至っている祭りも存在する。過去の祭りの多くは宗教に繋がっていたが、現代では宗教と関係しない祭りも新たに生み出され、人々を楽しませている。

柳田國男によって見出された時間論をとまなう日本人の伝統的な世界観のひとつとして「ハレとケ」がある。ハレは儀礼や祭りなど、非日常を表す。一方、ケは普段の生活である日常を表す。祭りが行われる空間、すなわち祭礼空間ではハレの日になると多くの人々が集い、賑わいの場に変化する。祭礼空間というと、神社仏閣が思い浮かぶがその他にも祭礼空間になるものがある。関西地方を中心に行われるだんじり祭りを例に考える。だんじり祭りは神社の境内だけで行われる祭りではなく、それぞれの神社の氏子町を曳行する形態をとっている。各氏子町によってそれぞれの曳行ルートの違いや特徴といったものが見られる。だんじり祭りのように各氏子町を曳行するような祭りを都市に出て行く祭りとして捉えることができる。だんじり祭りでは道路が曳行ルートの一部となる。都市に出て行くことで、普段私たちが利用しているような道路も祭りの時には祭礼空間のひとつとし

て機能することになる。

近年、高度情報化社会の進展とともに、空間情報技術も急速に普及し、地理情報システム (GIS: Geographic Information System) の利用がより身近になっている。祭礼に関する研究を行うにあたって、情報のデータベース化、地図上での祭礼の把握など、GIS を有効なツールとして活用することができる。

## 2. 研究の目的と方法

今日、都市の魅力が失われてきていることが懸念されている。その中で、都市における利便性、効率性だけを求めるのではなく、存在している文化的かつ独自の要素を見つめ直すことは、都市の独自性を取り戻す効果的な方策であると考えられる。

本研究では文化的かつ独自の要素の中において「祭り」に着目する。その中でも祭りが展開される空間、すなわち「祭礼空間」に着目し、これを分析・把握することにする。研究に取り組むにあたって重要なことは、地域固有の祭礼行事を現代に残された祭りや史料から捉え、GIS を用いて示すことである。GIS を用いることにより、地図上に神社・仏閣の位置や氏子町を示し、曳行ルートとの重ね合わせから、祭りが氏子町内でどのように広がっているのかといったことを空間的に把握することが可

能である。曳行ルートに関しては、各氏子町の祭礼関係の方々に聞き取り調査を行い、入手している。

### 3. 対象地

本研究では大阪府富田林市を対象地としている(図-1)。富田林市は大阪府の南東部に位置し、都市化の進展とともに成長してきた都市である。

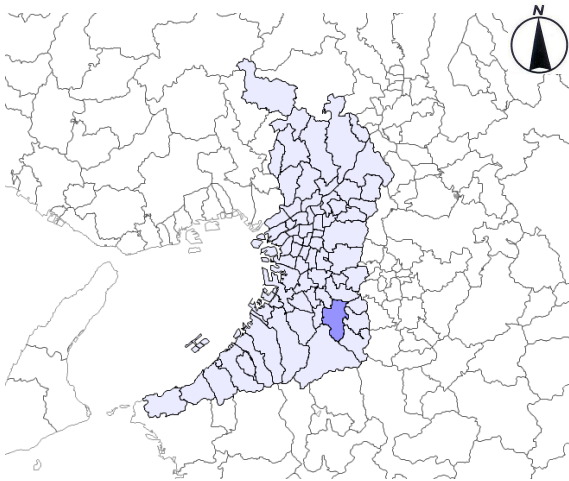


図-1 富田林市位置

また、国に指定されている文化財として錦織神社本殿や瀧谷不動尊明王寺不動明王および二童子立像などがある。さらに、富田林市には国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている寺内町がある。寺内町とは室町時代に浄土真宗などの仏教寺院、道場(御坊)を中心に形成された自治集落のことである。重要伝統的建造物群保存地区に指定されている寺内町は富田林寺内町と奈良県の今井町寺内町の2カ所のみであることから、富田林寺内町が歴史的に重要な拠点であることがわかる。このように富田林市は、昔から河内における重要な都市であったことがわかる。

次に寺院を街道との重ね合わせから把握する。寺院は39寺存在しており、寺院の分布状況を見ると、東高野街道沿いに寺院が分布している傾向がある(図-2)。これは、東高野街道が京都から高野山へ参拝に行くための主要道路であったこと、そして東高野街道沿いにある寺院が宿坊として僧侶や神職の宿営や休息の場となっていたことにより、東高野街道沿いに寺院が多く分布している。

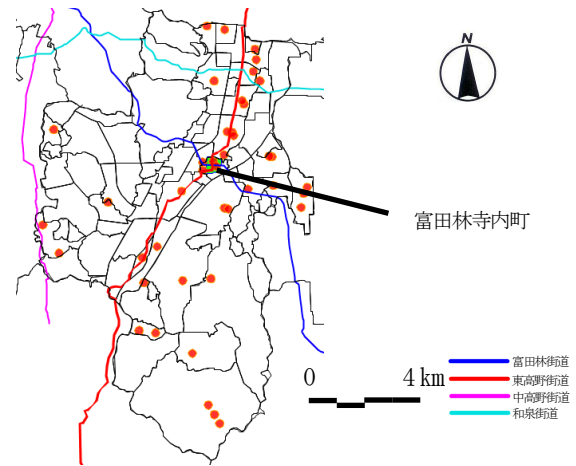


図-2 寺院の分布

寺院の宗派について着目すると、富田林市では浄土真宗を中心に形成された寺内町があるため、その影響で浄土真宗が多くを占めている。次いで融通念仏宗、浄土宗が多く信仰されている。浄土真宗は47%の寺院で信仰されており、全体の約半数を占めている。また、浄土真宗は大阪府全体でみても多くを占めており、全国的にみても同じようなことが言える(図-3)。

表-1 富田林市の寺院の宗派

宗派	寺院
浄土真宗	興正寺別院、浄福寺、専念寺、明尊寺、妙慶寺、円光寺、常念寺、正信寺
	泉電寺、光盛寺、正受寺、光円寺、金光寺、西徳寺、光徳寺、月光寺
	教蓮寺、専光寺
融通念仏宗	大念寺、浄谷寺、良法寺、極楽寺、長福寺、遍照寺、極楽寺
浄土宗	西方寺、浄信寺、極楽寺、青蓮寺
真言宗	滝谷不動明王寺、龍泉寺、松寿庵
黄檗宗	竜雲寺
臨済宗	楠地庵観音寺
妙見宗	妙見寺
日蓮正宗	善正寺
八宗兼学真修教	願昭寺
単立	楠徳寺、安楽寺

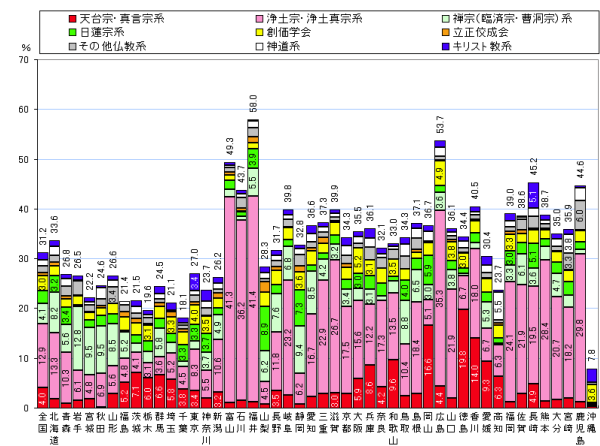


図-3 全国と都道府県別での信仰状況

続いて神社に着目する。現在神社は11社存在しており、分布状況を見ると、市を南北に横切る東高野街道沿いに分布している傾向がある(図-4)。これは寺院と同様に神社が宿坊として僧侶や神職の宿営や休息の場となっていたことにより、街道沿いに分布している。

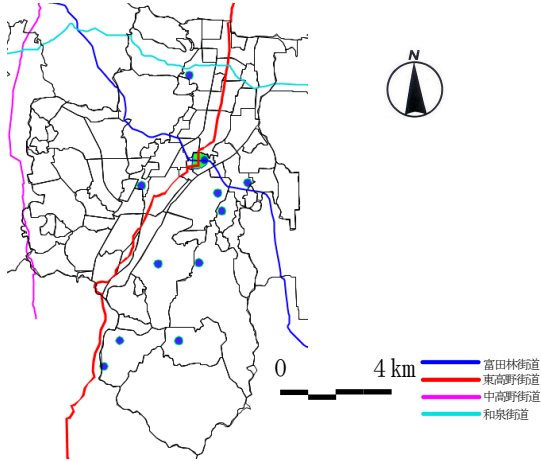


図-4 神社の分布

#### 4. 祭りとは

祭りと言っても、さまざまな種類があることから、まず祭りを分類することにする。祭りには宗教が関わるものと関わらないものがある(図-5)。宗教が関わらない祭りとしては、音楽フェスティバルなどが挙げられる。本研究では宗教が関わる祭りを対象とし考察する。祭りには都市空間的な要素として、都市に出て行く祭りと、境内で行われる祭りがある。前者は神社の祭りで多く行われ、例えばだんじり祭りや渡御祭などが挙げられる。一方、後者は寺院で行われるものが代表的で、花祭りや節分会などが挙げられる。両者に共通していることとして、一般の人々が神社・寺院に足を運ぶことは多くはないが、祭り時には多くの人々が集うことになる。このように、祭りは地域の人々や観光客との繋がる機会を作るコミュニティとしての機能をもっている。

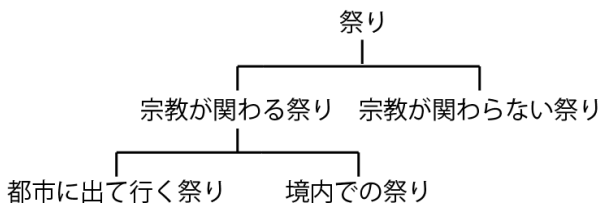


図-5 祭りの分類

本研究では、都市に出て行く祭りの中でもだんじり祭りに着目している。富田林市をはじめとする南河内では秋にだんじりを出す祭りが多く見られる。だんじり祭りと言えば、9月に泉州で行われる岸和田だんじり祭りが有名であるが、泉州だけでなく大阪をはじめ、さまざまな地域で夏から秋にかけてだんじり祭りが行われている(図-6)。だんじり祭りの発祥として、大阪府堺市を発祥地とする説がある。京都祇園祭の山鉾を元に、堺商人の財力を盾として発展を遂げたとする説である。江戸期から地車大工や彫物師が存在し、堺周辺で曳行されていた形態のだんじりが近畿各地に伝搬していることもその理由のひとつとして考えられる。

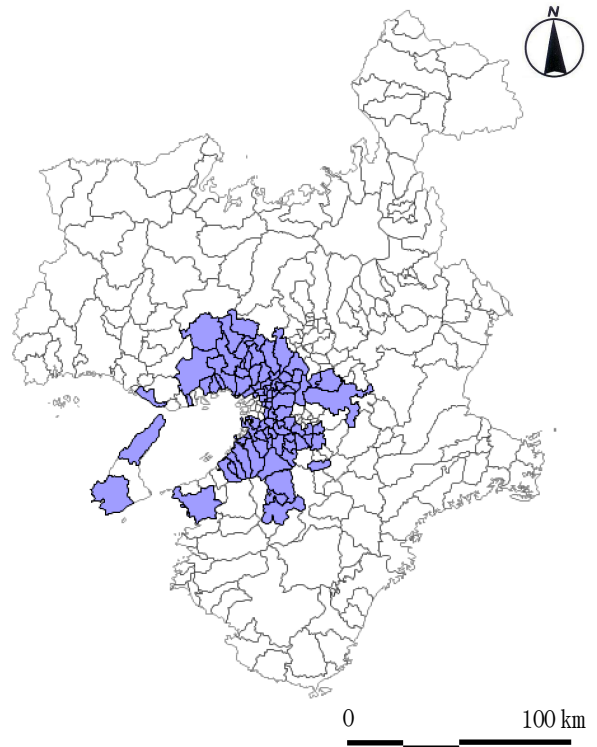


図-6 だんじり祭りが行われている地域

#### 5. 富田林市のだんじり祭り

富田林市にある神社 11 社中 6 社でだんじり祭りが行われている。一方、残りの 5 社は巖島神社や春日神社など、総本社のある神社が存在する。だんじり祭りを対象として都市とのつながりを把握するために、だんじりの曳行ルートに着目した。だんじりは氏子町によってさまざまなルートがあり、ルートを把握することで氏子町の特徴などを、GIS を用いて空間的に示す。

今回は 6 社の内の 1 社である美具久留魂神社のだんじり祭りに着目した。美具久留魂神社の氏子町は 12 町(若松 1 丁目, 新堂, 喜志, 喜志新家, 宮, 桜井, 中野, 川

面、平、毛人谷、寺内町、木戸山)あり、それぞれの曳行ルートがある。現在5町の曳行ルートを手に入れている。

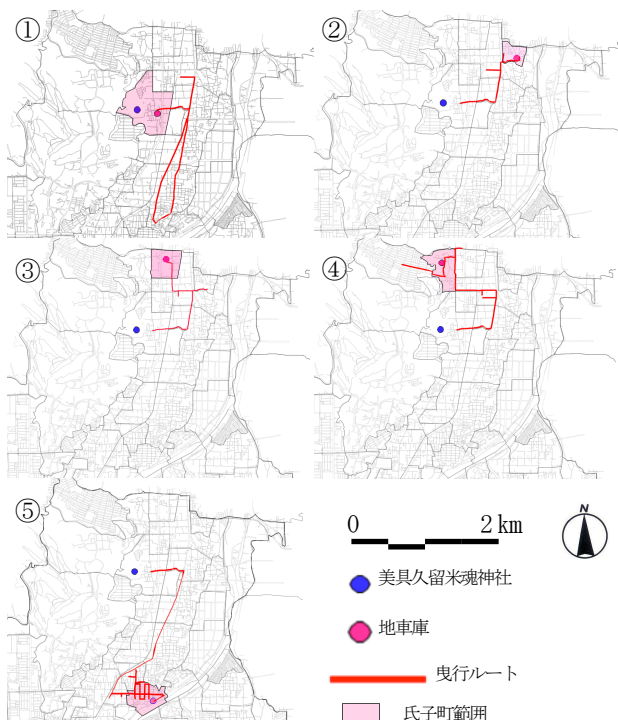


図-7 だんじり曳行ルート  
(①宮 ②木戸山 ③喜志新家 ④平 ⑤寺内町)

各氏子町により曳行ルートに違いがあり、例えば平町のようにだんじりをもっていない町へ出向いて、子供たちがだんじりに触れる機会をつくっている町がある。また、宮町のように町内曳行はあまり行わず、他の町を巡るといった曳行ルートをとっている町がある。さらに、だんじり祭りの見どころとして見せ場が存在する。パレードなどで行われるやり回しといったものや、神社の境内で行われるにわか芝居といったものが挙げられる。

次に地理的な要素として標高に着目した。各町ごとに曳行ルート上の数値標高点を100m間隔で把握しグラフ化した。グラフより平町曳行ルートにおいて、前半で標高が80m付近まで上がっている場所がある。これはだんじりをもっていない町である梅の里の場所である。梅の里へ入る道路は長い坂道となっている。だんじりが坂道を曳行する際はロープを引っ張って上る形式をとるが、平町町会長の話では、ロープを使わずに坂道を上りきるということであった。他の町では見れないような見せ場を平町はもっていると言える。寺内町は子供だんじりであり、子供が主体となって曳行を行っている。しかし、距離では大人だんじりよりも長い距離を曳行しているということがグラフより把握できる。距離4000m付近で多くの町が集まっているのは、各町が神社へ宮入するの

が距離的に同じタイミングであるため、神社の標高に集まっている。しかし、木戸山町は距離が短いため距離2000m付近での宮入となっている。

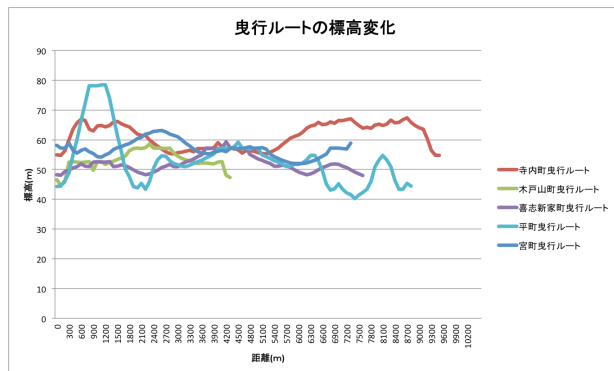


図-8 5町の曳行ルートの標高変化

## 6. おわりに

### (1) 結果

本研究では、富田林市における神社・寺院の分布や宗教の把握を行った。さらに、だんじり祭りに着目し、だんじりの都市への広がりをもGISを用いて示した。また、地理的な要素として標高に着目し、曳行ルート上の標高変化や走行距離から各町の特徴を把握した。

### (2) 今後の展開

今後は残りの曳行ルートを手に入しつつ、美具久留魂神社以外の神社に宮入する町の曳行ルートを手にする。さらに新しい指標を加えてだんじりの都市への広がりを分析・把握していく。

## 参考文献

- 1) 渡辺秀斗, 池田健人, 吉川 眞, 田中一成: 都市の歴史の変遷と祭礼空間, 平成27年度土木学会関西支部年次学術講演会, IV-34, 2015
- 2) 図録 都道府県民の信仰: 都道府県民の信仰 <http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/7770.html>
- 3) だんじり eo Special Edition <http://eonet.jp/danjiri/>
- 4) 富田林市史編集委員会: 富田林市史第二巻, 1998